

水稲 除草剤一覧

1 表示法と使用上の注意事項

- (1) 作期：普…普通期 早…早期 共…共通
- (2) 適用雑草：表層剥離は「アオミドロ・藻類による表層剥離」を示す。
オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、有効な中後期処理剤との組み合わせで使用する。
- (3) 移植栽培で除草効果および薬害の面から使用を避けるべき事項を次のとおり略記する。
 - ・漏水田：減水深が 2cm／日以上 of 漏水の大きな水田
 - ・深水：極端な深水となった水田
 - ・軟弱苗：軟弱な苗を移植した水田
 - ・強還元田：未熟有機物多用田、透水不良田などの強還元田
 - ・浅植え：極端な浅植えの水田及び植付不良で根が田面に露出している状態
 - ・冷水：冷水かけ流し条件が加わる中山間地帯
- (4) 登録内容は、2024 年 7 月 1 日現在
- (5) 本年度に新しく採用した薬剤は、太字で示した。
- (6) 剤型については、Ⅱ. 除草剤による防除を参照。

[参考]

雑草の葉齢の標準的進度（農産部）

代かき 後日数	早期栽培（4 月下旬植）			普通期栽培（6 月中～下旬植）			
	ノビエ	コナギ	ホタルイ	ノビエ	コナギ	ホタルイ	ウリカワ
5 日	発生前	発生前	発生前	0.5～1.2	発生始	発生始	発生始
7	発生始	発生前	発生始	1.2～2.0	1.0～1.5	1.0～1.5	1.0～1.5
10	0.5～1.0	発生始	0.5～1.0	2.0～2.5	1.5～2.0	1.5～2.0	2.0～2.5
12	1.0～1.5	0.5～1.0	1.0～2.0	2.5～3.2	2.5～3.0	2.5～3.0	3.0～3.5
15	1.5～2.0	1.0～1.5	2.0～2.5	3.2～3.8	3.0～4.0	3.0～4.0	3.5～5.0
20	2.0～2.5	1.5～2.5	2.5～3.5	3.8～4.5	4.0～5.0	4.0～5.0	5.0～6.5

注）単位は葉齢

2 農薬登録状況の確認

農薬の登録内容については、下記のホームページ等で最新情報を確認する。

農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp/>

3 除草体系

(1) 移植栽培

下表を参考にして地域や前年までの雑草防除体系を考慮し、最も効果的な防除体系を選ぶ。

雑草の種類		1 回目	2 回目
一年生 イネ科	ノビエ	一発処理剤	シハロホップ [®] フ [®] チル、メタミホ ップ [®] を含む中後期剤
	アゼガヤ		
多年生	セリ	対象雑草に適用の ある一発処理剤	2,4-PA、MCPA、ヘノ キスラム、ベンタゾンを 含む中後期剤
	クログワイ		
	コウキヤガラ		
S U 抵抗性	イヌホタルイ	非 S U 剤あるい は、ピラクロニル、クロメ プロップ [®] 、ベンゾビシク ロン、プロモフ [®] チト [®] 等を 含む一発処理剤	
	アゼナ		
	コナギ		

注) 1 2 回目は雑草の発生が多い場合に処理する。

2 薬剤処理時期は雑草や水稻の生育ステージを考慮して決める。

3 薬剤によって処理時期が適期内でも遅い場合にコナギなどの広葉雑草が問題になることがある。広葉雑草の多発生が予想される場合には、適期内でも早い時期に処理を行い、除草剤一覧を参考にして除草剤を選定する。

(2) 直播栽培

ア 乾田直播

処理 時期	乾田期 (播種直後～ 稲出芽前)	乾田期(播種後 10 日以降) ～入水 5 日前	入水後
除草 剤名	サターンバアロ 乳剤	クリンチャーバスME液剤 クリンチャーEW トドメバスMF液剤	直播水稻に登録のある 初中期一発処理剤

注) 播種前に雑草が多い場合は、耕起前日までに非選択性除草剤を使用する。

イ 湛水直播

処理 時期	播種直後～ ノビエ 1 葉期	イネ 1 葉期～ノビエ 2 葉期	生育中～後期
除草 剤名	プレキープ 1 キ ロ粒剤	直播水稻に登録のある 初中期一発処理剤	直播水稻に登録のある 中後期除草剤

4. 移植栽培

2024年7月1日現在

(1) 移植後生育初期（非SU剤）

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
移植後生育初期	ベクサーフロアブル (1999)	ペントキサゾン 2.9
	ホットコンビフロアブル (2015)	テニルクロール 4.0 ベンゾビシクロン 4.0
	ユニハーブフロアブル (1995)	プレチラクロール 5.0 ベンゾフェナップ 20.0

(2) 初期一発処理（非SU剤）

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初期一発処理	クサホープD粒剤	ジメタメトリン 0.2 ピラゾレート 6.0 プレチラクロール 1.5
	(1998)	
	スラッシャ1キロ粒剤	ジメタメトリン 0.6 ピラゾレート 12.0 プレチラクロール 4.5 プロモブチド 6.0
	(2001)	
	ナイスショットジャンボ	カフェンストロール 4.2 ピラゾレート 18.0 プロモブチド 18.0
	(2002)	
	マキシーマX1キロ粒剤	プレチラクロール 4.2 メソトリオン 0.6
	(2013)	

4. 移植栽培

(3) 初・中期一発処理（非SU剤）

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	アシュラジャンボ	トリアファモン 1.25 ピラクロニル 5.0 (2023) ベンゾビスクロン 5.0
	アシュラフロアブル	トリアファモン 0.96 ピラクロニル 3.8 (2020) ベンゾビスクロン 3.8
	アシュラ1キロ粒剤	トリアファモン 0.5 ピラクロニル 2.0 (2023) ベンゾビスクロン 2.0
	アシュラ400FG	トリアファモン 1.25 ピラクロニル 5.0 (2023) ベンゾビスクロン 5.0
	イネキングジャンボ	ピラクロニル 4.0 ピラゾレート 20.0 (2011) ベンゾビスクロン 4.0
	イネキングフロアブル	ピラクロニル 3.6 ピラゾレート 20.0 (2011) ベンゾビスクロン 4.0
	イネキング 1 キロ粒剤	ピラクロニル 2.0 ピラゾレート 10.0 (2010) ベンゾビスクロン 2.0
	イネリーグジャンボ	フェントラザミド 7.5 テフリルトリオン 7.5 (2023) クロメブロップ 11.2
	イネリーグフロアブル	フェントラザミド 5.7 テフリルトリオン 5.7 (2023) クロメブロップ 8.5
	イネリーグ1キロ粒剤	フェントラザミド 3.0 テフリルトリオン 3.0 (2023) クロメブロップ 4.5
	エーワンジャンボ	オキサジクロメホン 2.0 (2012) テフリルトリオン 10.0
	エーワンフロアブル	オキサジクロメホン 1.2 (2013) テフリルトリオン 6.0
	エーワン 1 キロ粒剤	オキサジクロメホン 0.8 (2011) テフリルトリオン 3.0
	エンペラー1キロ粒剤	ピラクロニル 2.0 (2020) ビリミノバックメチル 0.75 フェンキノトリオン 3.0
	カウンシルエナジージャンボ/ アバンティジャンボ	トリアファモン 1.2 フェンキノトリオン 7.5 (2020) フェントラザミド 7.5
	カウンシルエナジーフロアブル/ アバンティフロアブル	トリアファモン 1.0 フェンキノトリオン 5.7 (2020) フェントラザミド 5.7
	カウンシルエナジー1キロ粒剤/ アバンティ1キロ粒剤	トリアファモン 0.5 フェンキノトリオン 3.0 (2020) フェントラザミド 3.0
	ガンガンジャンボ	ピリミスルファン 2.0 (2017) フェノキサスルホン 8.0
	ガンガン豆つぶ 2 5 0	ピリミスルファン 2.0 (2017) フェノキサスルホン 8.0
	ガンガン 1 キロ粒剤	ピリミスルファン 0.5 (2017) フェノキサスルホン 2.0
	キマリテジャンボ	イブフェンカルバゾン 8.3 (2017) テフリルトリオン 10.0
	キマリテフロアブル	イブフェンカルバゾン 5.0 (2017) テフリルトリオン 6.0
	キマリテ 1 キロ粒剤	イブフェンカルバゾン 2.5 (2017) テフリルトリオン 3.0
	サキガケ薬粒	イブフェンカルバゾン 10.0 テフリルトリオン 12.0 (2023) フロルピラウキシフェンベンジル 2.0
	ジェイソウルジャンボ	シクロピリモレート 6.7 (2021) ピラゾレート 13.3 フェントラザミド 6.7
	ジェイソウルフロアブル	シクロピリモレート 5.5 (2021) ピラゾレート 11.0 フェントラザミド 4.5
	ジェイソウル1キロ粒剤	シクロピリモレート 3.0 (2021) ピラゾレート 6.0 フェントラザミド 3.0
	ジェイフレンドジャンボ	ピラクロニル 0.8 テフリルトリオン 7.5 (2019) オキサジクロメホン 5.0

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	ジェイフレンドフロアブル	ピラクロニル 3.8 テフリルトリオン 5.7 (2018) オキサジクロメホン 0.6
	ジェイフレンド 1 キロ粒剤	ピラクロニル 2.0 テフリルトリオン 3.0 (2018) オキサジクロメホン 0.3
	ジャイロ1キロ粒剤	イブフェンカルバゾン 2.5 ベンゾビスクロン 3.0 (2019) ベンゾフェナップ 8.0
	ジャスタ1キロ粒剤/ クサウェボン1キロ粒剤	シクロピリモレート 3.0 トリアファモン 0.5 (2022) ピラゾレート 6.0
	ジャスタジャンボ/ クサウェボンジャンボ	シクロピリモレート 7.5 トリアファモン 1.2 (2022) ピラゾレート 15.0
	ジャンダルムMX豆つぶ250	ピリフタリド 7.2 (2021) ピリミスルファン 2.0 メソトリオン 3.6
	ジャンダルムMXジャンボ	ピリフタリド 7.2 (2021) ピリミスルファン 2.0 メソトリオン 3.6
	ジャンダルムMX1キロ粒剤	ピリフタリド 1.8 (2021) ピリミスルファン 0.5 メソトリオン 0.9
	シングキジャンボ (2025)	フェンキノトリオン 3.0 フェントラザミド 3.0
	シングキ1キロ粒剤 (2025)	フェンキノトリオン 3.0 フェントラザミド 3.0
	ストレングス 1 キロ粒剤	テフリルトリオン 3.0 トリアファモン 0.5 (2024) フロルピラウキシベンジル 0.45
	ピラクロエース1キロ粒剤/ カリュード1キロ粒剤	ピラクロニル 2.0 ベンゾビスクロン 2.0 (2018) ベンゾフェナップ 8.0
	プライオリティ1キロ粒剤 (2020)	トリアファモン 0.5 フェンキノトリオン 3.0
	ボデーガードジャンボ (2012)	テフリルトリオン 7.5 フェントラザミド 7.5
	ボデーガード 1 キロ粒剤 (2011)	テフリルトリオン 3.0 フェントラザミド 3.0
	ワザアリ 薬粒 (2024)	イブフェンカルバゾン 10.0 テフリルトリオン 12.0

(4) 初期一発処理（SU剤）

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初期一発処理	イノーバD X 1 キロ粒剤 5 1	ダイムロン 4.5 フェントラザミド 2.0 (2008) プロモブチド 7.5 ベンスルフロンメチル 0.51
	カットダウン 1 キロ粒剤	イマゾスルフロン 0.9 (2016) ピラクロニル 2.0
	クサトリエースLジャンボ	カフェンストロール 7.0 ダイムロン 15.0 (1999) ベンスルフロンメチル 1.7
	クラッシュE X ジャンボ	イマゾスルフロン 1.8 カフェンストロール 4.2 (2001) ダイムロン 20.0
	マサカリ L ジャンボ	インダノファン 2.8 クロメブロップ 7.0 (2003) ベンスルフロンメチル 1.0
	ヨシキタ 1 キロ粒剤	イマゾスルフロン 0.90 プロモブチド 9.0 (2010) ペントキサゾン 3.9

（５）初・中期一発処理（SU剤）

処理法	除草剤名 （登載年）	成分（％）	
初・中期一発処理	アカツキジャンボ	フェノキサスルホン	8.0
		フェンキノトリオン	12.0
	（2024）	メタゾスルフロン	4.0
	アカツキ豆つぶ250	フェノキサスルホン	8.0
		フェンキノトリオン	12.0
	（2024）	メタゾスルフロン	4.0
	アカツキフロアブル	フェノキサスルホン	3.8
		フェンキノトリオン	5.7
	（2024）	メタゾスルフロン	1.9
	アカツキ１キロ粒剤	フェノキサスルホン	2.0
		フェンキノトリオン	3.0
	（2024）	メタゾスルフロン	1.0
	アクシズMXジャンボ /ウツベシMXジャンボ （2025）	ピリフタリド	3.0
		メソトリオン	3.0
		メタゾスルフロン	2.4
	アクシズMX１キロ粒剤	ピリフタリド	2.7
		メソトリオン	0.90
	（2014）	メタゾスルフロン	0.80
	アッパレZジャンボ	ピラクロニル	5.0
		プロピリスルフロン	2.25
	（2017）	プロモブチド	22.5
	アッパレZフロアブル	ピラクロニル	3.7
		プロピリスルフロン	1.7
	（2017）	プロモブチド	16.8
	アッパレZ１キロ粒剤	ピラクロニル	2.0
		プロピリスルフロン	0.9
	（2017）	プロモブチド	9.0
	アピログロウMXエアー粒剤	プレチラクロール	11.25
		ピリフタリド	3.75
		メソトリオン	2.25
	（2023）	ピラゾスルフロンメチル	0.75
	アピログロウMXジャンボ	ピラゾスルフロンメチル	0.75
		ピリフタリド	3.75
		プレチラクロール	11.25
	（2016）	メソトリオン	2.25
	アピログロウMX１キロ粒剤	ピラゾスルフロンメチル	0.3
		ピリフタリド	1.5
		プレチラクロール	4.5
	（2016）	メソトリオン	0.9
	アピロトップMX１キロ粒剤 5 1	ピリフタリド	1.2
		プレチラクロール	4.6
		ベンスルフロンメチル	0.51
		メソトリオン	0.90
	イッポンDフロアブル	ダイムロン	8.0
		ピラクロニル	4.0
		プロモブチド	12.0
	（2015）	ベンスルフロンメチル	1.0
	イッポンD1キロ粒剤 5 1	ダイムロン	4.0
		ピラクロニル	2.0
		プロモブチド	6.0
	（2015）	ベンスルフロンメチル	0.5
	ウルティモZジャンボ	シクロピリモレート	8.6
		ピラゾレート	17.1
	（2021）	プロピリスルフロン	2.6
	ウルティモZフロアブル	シクロピリモレート	5.5
		ピラゾレート	11.0
	（2021）	プロピリスルフロン	1.7
	ウルティモZ１キロ粒剤	シクロピリモレート	3.0
		ピラゾレート	6.0
	（2021）	プロピリスルフロン	0.9
	オйкаゼZジャンボ /メガゼータジャンボ （2025）	ピラクロニル	5.0
		プロピリスルフロン	2.25
	オйкаゼZ250FG （2025）	プロピリスルフロン	3.6
		ピラクロニル	8.0
	オйкаゼZフロアブル	ピラクロニル	3.9
	/メガゼータフロアブル （2025）	プロピリスルフロン	1.7
	オйкаゼZ1キロ粒剤	ピラクロニル	2.0
	/メガゼータ1キロ粒剤 （2025）	プロピリスルフロン	0.9
	カイリキZジャンボ	イプフェンカルバゾン	8.3
		テフリルトリオン	8.3
	（2021）	プロピリスルフロン	3.0

処理法	除草剤名 （登載年）	成分（％）	
初・中期一発処理	カイリキZフロアブル	イプフェンカルバゾン	4.8
		テフリルトリオン	4.8
	（2022）	プロピリスルフロン	1.8
	カイリキZ1キロ粒剤	イプフェンカルバゾン	2.5
		テフリルトリオン	2.5
	（2022）	プロピリスルフロン	0.9
	カウンシルコンブリートジャンボ ／ボデーガードプロジャンボ （2018）	テフリルトリオン	10.0
		トリアファモン	1.6
	カウンシルコンブリートフロアブル ／ボデーガードプロフロアブル （2018）	テフリルトリオン	5.8
		トリアファモン	1.0
	カウンシルコンブリート1キロ粒剤 ／ボデーガードプロ1キロ粒剤 （2018）	テフリルトリオン	3.0
		トリアファモン	0.5
	カチドキZ薬粒 （2025）	プロピリスルフロン	3.6
		フルロピラウキシフェンベンジル	2.0
	カチドキZ１キロ粒剤 （2025）	プロピリスルフロン	0.5
		フルロピラウキシフェンベンジル	0.9
	カチボシLジャンボ	イプフェンカルバゾン	8.3
		テフリルトリオン	6.7
	（2016）	ベンスルフロンメチル	1.7
	カチボシLフロアブル	イプフェンカルバゾン	5.0
		テフリルトリオン	4.0
	（2016）	ベンスルフロンメチル	1.0
	カチボシL１キロ粒剤51	イプフェンカルバゾン	2.5
		テフリルトリオン	2.0
	（2016）	ベンスルフロンメチル	0.5
	ガツントZジャンボ	プロピリスルフロン	4.5
	（2024）	テフリルトリオン	10.0
	ガツントZ200FG （2025）	プロピリスルフロン	4.5
		テフリルトリオン	10.0
	ガツントZフロアブル	プロピリスルフロン	1.7
	（2023）	テフリルトリオン	3.8
	ガツントZ1キロ粒剤 （2023）	プロピリスルフロン	0.9
		テフリルトリオン	2.0
	キンクンジャーZジャンボ	ピラゾレート	30.0
	（2014）	プロピリスルフロン	1.8
	キンクンジャーZフロアブル	ピラゾレート	27.3
	（2014）	プロピリスルフロン	1.6
	キンクンジャーZ１キロ粒剤 （2013）	ピラゾレート	15.0
		プロピリスルフロン	0.9
	キラリジャンボ	イマゾスルフロン	2.25
		ピラクロニル	5.0
	（2022）	テフリルトリオン	5.0
	キラリフロアブル	イマゾスルフロン	1.7
		ピラクロニル	3.8
	（2022）	テフリルトリオン	3.8
	キラリ１キロ粒剤	イマゾスルフロン	0.9
		ピラクロニル	2.0
	（2021）	テフリルトリオン	2.0
	銀河ジャンボ	ダイムロン	25.0
		ピラクロニル	5.0
	（2015）	メタゾスルフロン	2.5
	銀河フロアブル	ダイムロン	20.0
		ピラクロニル	4.0
	（2015）	メタゾスルフロン	2.0
	銀河１キロ粒剤	ダイムロン	10.0
		ピラクロニル	2.0
	（2014）	メタゾスルフロン	1.0
	クサトリ－BSXジャンボL	フェントラザミド	10.0
		ベンスルフロンメチル	1.7
	（2015）	ベンゾビシクロン	6.7
	クサトリ－BSXフロアブルL	フェントラザミド	5.8
		ベンスルフロンメチル	1.0
	（2015）	ベンゾビシクロン	3.8
	クサトリ－BSX1キロ粒剤51 / ビクシュアZ１キロ粒剤51 （2015）	フェントラザミド	3.0
		ベンスルフロンメチル	0.51
		ベンゾビシクロン	2.0
	ゴエモン1キロ粒剤	イマゾスルフロン	0.9
		イプフェンカルバゾン	2.5
	（2015）	プロモブチド	9.0
	コメットフロアブル	テフリルトリオン	4.0
		ピラクロニル	4.0
	（2019）	メタゾスルフロン	1.2

(5) 初・中期一発処理 (SU剤)

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発処理	サラブレットG0ジャンボ	ピラクロニル 2.5 イマゾスルフロン 2.3 オキサジクロメホン 1.5 (2023) ブロモブチド 22.5
	サラブレットG0400FG	ピラクロニル 2.5 イマゾスルフロン 2.25 オキサジクロメホン 1.5 (2023) ブロモブチド 22.5
	サラブレットG0フロアブル	ピラクロニル 1.9 イマゾスルフロン 1.7 オキサジクロメホン 1.1 (2023) ブロモブチド 16.7
	サラブレットG0フロアブル	ピラクロニル 1.9 イマゾスルフロン 1.7 オキサジクロメホン 1.1 (2023) ブロモブチド 16.7
	サラブレットG01キロ粒剤	ピラクロニル 1.0 イマゾスルフロン 0.9 オキサジクロメホン 0.6 (2023) ブロモブチド 9.0
	サラブレットKAIジャンボ	イマゾスルフロン 2.25 オキサジクロメホン 0.75 (2015) ピラクロニル 5.0
	サラブレットKAI400FG	イマゾスルフロン 2.3 オキサジクロメホン 0.75 (2024) ピラクロニル 5.0
	サラブレットKAIフロアブル	イマゾスルフロン 1.7 オキサジクロメホン 0.57 (2015) ピラクロニル 3.8
	サラブレットKAI 1キロ粒剤	イマゾスルフロン 0.9 オキサジクロメホン 0.4 (2014) ピラクロニル 2.0
	シグナスジャンボ	メタゾスルフロン 2.0 テフルルトリオン 6.7 (2018) フェントラザミド 10.0
	シグナスフロアブル	メタゾスルフロン 1.2 テフルルトリオン 4.0 (2018) フェントラザミド 6.0
	シグナス1キロ粒剤	メタゾスルフロン 0.6 テフルルトリオン 2.0 (2018) フェントラザミド 3.0
	忍1キロ粒剤	イマゾスルフロン 0.90 ピラクロニル 2.0 (2013) ベンゾビシクロン 2.0
	シンズイZジャンボ	オキサジクロメホン 2.4 フェンキノトリオン 12.0 (2022) プロピリスルフロン 3.6 ブロモブチド 36.0
	シンズイZ1キロ粒剤	オキサジクロメホン 0.8 フェンキノトリオン 3.0 (2022) プロピリスルフロン 0.9 ブロモブチド 9.0
	セイテンジャンボ	オキサジクロメホン 2.4 ジメタメトリン 2.4 フェンキノトリオン 12.0 (2025) ベンスルフロンメチル 3.0
	セイテン1キロ粒剤	オキサジクロメホン 0.8 ジメタメトリン 0.6 フェンキノトリオン 3.0 (2025) ベンスルフロンメチル 0.8
	ゼータジャガージャンボ	プロピリスルフロン 4.5 フェンキノトリオン 15.0 (2022) ペントキサゾン 10.0
	ゼータジャガーフロアブル	プロピリスルフロン 1.7 フェンキノトリオン 5.7 (2022) ペントキサゾン 3.8
	ゼータタイガージャンボ／ ドラゴンホークZジャンボ	プロピリスルフロン 3.0 ブロモブチド 30.0 (2018) ペントキサゾン 6.67
	ゼータタイガーフロアブル／ ドラゴンホークZフロアブル	プロピリスルフロン 1.7 ブロモブチド 16.8 (2018) ペントキサゾン 3.7
	ゼータハンマー1キロ粒剤	ペントキサゾン 2.0 (2018) プロピリスルフロン 0.9
	ゼータプラスジャンボ	フェンキノトリオン 15.0 (2021) プロピリスルフロン 4.5

処理法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)
初・中期一発除草剤	ゼータプラス200FG (2025)	フェンキノトリオン 15.0 プロピリスルフロン 4.5
	ゼータプラスフロアブル (2021)	フェンキノトリオン 5.8 プロピリスルフロン 1.7
	ゼータプラス1キロ粒剤 (2021)	フェンキノトリオン 3.0 プロピリスルフロン 0.9
	ゼータワンジャンボ (2012)	プロピリスルフロン 2.3
	センイチMXジャンボ フルパワーMXジャンボ (2017)	ピラクロニル 4.0 フルセトスルフロン 0.4 メソトリオン 1.8
	ディオーレ1キロ粒剤 (2022)	オキサジクロメホン 0.4 テフルルトリオン 2.0 メタゾスルフロン 1.0
	天空ジャンボ (2018)	メタゾスルフロン 2.0 ベンゾビシクロン 10.0 フェントラザミド 10.0
	天空フロアブル (2018)	メタゾスルフロン 1.2 ベンゾビシクロン 6.0 フェントラザミド 6.0
	天空1キロ粒剤 (2018)	メタゾスルフロン 0.6 ベンゾビシクロン 3.0 フェントラザミド 3.0
	ドリフ1キロ粒剤 (2021)	トリアファモン 0.4 フェントラザミド 2.0 エトキシスルフロン 0.17 クロメプロップ 4.5
	ノックアウト薬剤 (2025)	シメトリン 6.0 テフルルトリオン 10.0 トリアファモン 2.0 ベンフレセート 18.0
	バッチリフロアブル (2011)	イマゾスルフロン 1.7 ピラクロニル 3.7 ブロモブチド 16.3
	バッチリ1キロ粒剤 (2010)	イマゾスルフロン 0.9 ピラクロニル 2.0 ブロモブチド 9.0
	バッチリLXジャンボ (2017)	ピラクロニル 5.0 イマゾスルフロン 2.3 ブロモブチド 22.5 オキサジクロメホン 0.8
	バッチリLXフロアブル (2016)	ピラクロニル 3.7 イマゾスルフロン 1.7 ブロモブチド 16.3 オキサジクロメホン 0.6
	フルスコアZジャンボ (2022)	プロピリスルフロン 3.0 ランコトリオンナトリウム塩 7.0
	フルスコアZ1キロ粒剤 (2022)	プロピリスルフロン 0.9 ランコトリオンナトリウム塩 2.1
	ブルゼータジャンボ (2019)	プロピリスルフロン 4.5 ベンゾビシクロン 10.0
	マストラオジャンボ (2021)	イマゾスルフロン 4.5 ピリミノバックメチル 3.0 フェンキノトリオン 15.0
	マストラオフロアブル (2021)	イマゾスルフロン 1.7 ピリミノバックメチル 1.2 フェンキノトリオン 5.8
	マストラオ1キロ粒剤 (2020)	イマゾスルフロン 0.9 ピリミノバックメチル 0.6 フェンキノトリオン 3.0
	ラオウジャンボ (2023)	ダイムロン 24.0 フェノキサスルホン 6.0 フェンキノトリオン 10.0 ベンスルフロンメチル 3.0
	ラオウフロアブル (2023)	ダイムロン 11.3 フェノキサスルホン 2.8 フェンキノトリオン 4.7 ベンスルフロンメチル 1.4
	ラオウ1キロ粒剤 (2023)	ダイムロン 6.0 フェノキサスルホン 1.5 フェンキノトリオン 2.5 ベンスルフロンメチル 0.8
	流星1キロ粒剤 (2022)	フェンキノトリオン 3.0 ペントキサゾン 2.5 メタゾスルフロン 1.0

（６）生育中後期

除草剤名 (登録年)	成分（％）		適用雑草											表 層 剥 離	使用上の注意
			ノ ビ エ	水 田 一 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	ウ リ カ ワ	ミ ズ ガ ヤ ツ リ	ヒ ル ム シ ロ	コ ウ キ ヤ ガ ラ	オ モ ダ カ	ヘ ラ オ モ ダ カ	セ リ	ク ロ グ ワ イ	
アレイルSC (2021)	ハロスルフロンメチル メタゾスルフロン	1.8 2.4	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1 散布後少なくとも2日間（湛水処理は3日間）はそのままの状態を保ち、入水はしない。散布後、7日間は落水・かけ流しはしない。 2 いぐさの栽培予定水田では使用しないこと
アトカラSジャンボMX／ セカンドショットSジャンボMX (2018)	アジムスルフロン ベノキススラム メソトリオン	0.36 0.36 2.0	●	●	●	●	●	●				●	●	●	
ウィードコア1キロ粒剤 (2022)	フロロピラウキシフェンベンジル ベノキススラム ペンゾピシクロン	0.4 0.5 2.0	●	●		●	●	●	●				●		1・散布に当たっては、水深3～5cmの湛水状態で田面に均一に散布してください。水の出入りを止めて、少なくとも3～5日間はそのままの湛水状態を保ち、田面を露出させないよう注意してください。散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、止水期間中の入水は静かに行ってください。
クリンチャー1キロ粒剤 (1998)	シハロホップブチル	1.8	●	アゼガヤ、キシュウスズメノヒエに適用あり											1 散布する前に水の出入りを止め、湛水のままムラのないよう均一に散布する。散布後少なくとも3～4日間は湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、落水、かけ流しはしない。 2 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在するほ場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。 3 キシュウスズメノヒエの防除は展開葉が水面に接する条件で使用する。
クリンチャージャンボ (1999)	シハロホップブチル	1.8	●												1 クリンチャー1キロ粒剤の1～2に準ずる。
クリンチャーEW (2000)	シハロホップブチル	30.0	●	アゼガヤ、キシュウスズメノヒエに適用あり											1 展着剤を加用して散布する。 2 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在するほ場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。 3 落水条件で散布する際は、撒きむらがないように均一に散布してください。 4 湛水条件で散布する際は、散布する前に水の出入りを止め、湛水のまま均一に散布する。少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm程度）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 5 とうもろこし、ソルガム等イネ科作物及びキャベツ等の隣接田で使用する場合はこれらにかからないよう注意する。
クリンチャーバスME液剤 (1997)	シハロホップブチル ペンタゾンナトリウム塩	3.0 20.0	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	1 高温条件では葉の白斑や葉枯れなどの葉害を生じることがあるので、散布後に高温が予想される場合には、夕方に散布するなど高温条件を避け、出来るだけ多めの希釈水量を用い、低濃度液を水稻にかからないように散布する。 2 動力噴霧器での散布は葉害を生じやすいので、肩掛け散布器などでスポット処理することが望ましい。 3 散布する前に落水状態にして水の出入りを止め（落水出来ない場合は出来るだけ浅水状態にして）ムラのないように均一に散布する。 4 散布後少なくとも3日間（浅水処理の場合は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 5 ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリでは発生盛期から増殖中期までが散布適期である。
ゲバードジャンボ (2021)	ダイムロン ピラクロニル ペンゾピシクロン メタゾスルフロン	25.0 5.0 5.0 3.0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1 いぐさの栽培予定水田では使用しない
シアゲMF1キロ粒剤 (2020)	ビリミスルフアン メタミホップ MCPB	0.60 0.90 2.40	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	1 散布に当たっては、水の出入りを止めて5cm以上の湛水をし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（3～5cm）を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしない。 2 オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ防除は有効な前処理剤との組み合わせで使用する。 3 散布後の急激な気温の上昇により葉害を生じることがある。
テッケン1キロ粒剤 /ニトウリュウ1キロ粒剤 (2015)	ベノキススラム ペンゾピシクロン	0.5 2.0	●	●	●	●	●	●	●				●		
トドメMF乳剤 (2019)	メタミホップ	4.9	●												1 湛水散布または落水散布。 2 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在するほ場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。
トドメMF1キロ粒剤 (2019)	メタミホップ	1.4	●												1 湛水散布。 2 広葉雑草には効果がないので、広葉雑草が混在するほ場では、それらに有効な剤と組み合わせて使用する。
トドメバスMF液剤 (2022)	ペンタゾンナトリウム塩 メタミホップ	18.3 1.2	●	●	●	●	●	●				●	●		1 散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 2 オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。
粒状水中2、4-D (1958)	2、4-P Aエチル	1.4		水田雑草（イネ科を除く）に適用あり											1 湛水状態で散布する。漏水田では使用を避け、散布後は水の出入りを止めて、2日間以上湛水状態を保つ。 2 粒剤は雑草への付着が少ないので効果が劣る。また選効性なので、3～5日程度散布時期を早める。
2、4-Dアミン塩 (1999)	2、4-P Aジメチルアミン	49.5		水田雑草（イネ科を除く）に適用あり											1 薬剤が雑草に良く付着するよう十分落水して、2、4-D専用の散布器で出来るだけ株間に均一に散布する。 2 降雨前の散布はさける。 3 散布後2～3日間は落水のままとし、灌水しない。 4 噴霧器で散布すると除草効果は一層高くなるが、水稻の生育抑制も大きいので、生育旺盛な場合を除いては使用しない。 5 マツバイ、ホタルイ、ウリカワの多発田では、使用量の範囲内で散布量を多くする。
ノブレクト乳剤 (2025)	フルロピラウキシフェンベンジル シロハホップブチル	2.1 10.6	●	●		●	●						●		1 初期剤または一発処理剤との体系で使用する。 2 ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので対象外にする。 3 落水またはごく浅く湛水して散布し、散布後3日以内に入水する。
バサグラン・エアー1キロ粒剤 (2024)	ペンタゾン	33.0	●	●	●	●	●	●		●	●			●	1 ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワでは発生盛期～増殖中期まで、オモダカでは発生盛期～発生揃期まで、クログワイでは草丈15～20cmまでに使用する。 2 散布後少なくとも3～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。 3 無人航空機による省力散布が可能。
バサグラン粒剤（ナトリウム塩） (1988)	ペンタゾンナトリウム塩	11.0	●	●	●	●	●	●		●	●				1 一年生広葉やカヤツリグサ科雑草および多年生広葉雑草に優れた効果を示す。イネ科雑草には効果がないので、イネ科雑草の優占圃場での使用はひかえる。また、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。 2 十分に落水して散布する。散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 3 処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用する。
バサグラン液剤（ナトリウム塩） (1988)	ペンタゾンナトリウム塩	40.0	●	●	●	●	●	●		●	●			●	1 バサグラン粒剤の1～3に準ずる。 2 重複散布は葉害のおそれがあるので、均一散布につとめる。
フォローアップ1キロ粒剤 ワイドアタックD1キロ粒剤 (2013)	ダイムロン ベノキススラム	10.0 0.60	●	●	●	●	●	●	●		●			●	1 散布する前に湛水状態（水深3～5cm）にして水の出入りを止め、ムラのないよう均一に散布する。 2 散布後少なくとも3～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。
モゲトン粒剤 (1972)	ACN	9.0					●		●						1 河川、池などに流れ込んだ場合、魚類に被害を及ぼすので決して流出しないよう注意する。 2 水稻3葉期以下の時期では葉害の恐れがあるので使用しない。
レブラスジャンボ (2021)	ジメタメトリン ダイムロン テフリルトリオン メタゾスルフロン	2.5 25.0 7.5 3.0	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1 散布に当たっては、水の出入りを止めて5～6cmの湛水状態を保つ。 2 いぐさの栽培予定水田では使用しない。 3 雑草の発生前から生育初期に有効なため、ノビエ4葉期まででに時期を失しないように散布する。
ロイヤント乳剤 (2024)	フロロピラウキシフェンベンジル	2.7	●	●	●		●	●			●		●		1 ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので対象外とする。 2 落水またはごく浅く湛水して散布し、散布後3日以内に入水する。
ワイドアタックSC (2012)	ベノキススラム	3.6	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	1 散布する前に落水状態（落水できない場合はごく浅水状態にして）にして水の出入りを止め、ムラのないように均一に散布する。 2 散布後7日間はそのままの状態を保ち、入水や落水、かけ流しをしない。 3 散布時期が遅くなると生育が進んだ雑草が多くなるので、登録範囲内で早めに散布する。 4 効果の発現は遅く、効果の完成まで30～40日要することがある。
ワイドショット1キロ粒剤 (2018)	ベノキススラム テフリルトリオン	0.50 3.0	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	
ワイドパワー粒剤 (2014)	ベノキススラム ペンタゾン	0.12 11.0	●	●	●	●	●	●	●		●			●	1 落水散布またはごく浅く湛水して散布する。

5. 乾田直播

2024年7月1日現在

処 理 法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)	適用雑草											表層剥離	使用上の注意
			ノ ビ エ	水 田 一 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	ウ リ カ ワ	ミ ズ ガ ヤ ツ リ	ヒ ル ム シ ロ	コ ウ キ ヤ ガ ラ	オ モ ダ カ	ヘ ラ オ モ ダ カ	セ リ	ク ロ グ ワ イ	
乾 田 期	サターンバアロ乳剤	プロメトリン 5.0 ベンチオカーブ 50.0 (1973)	●	●	●										1. 播種後湿潤状態で処理した方が効果的である。 2. 覆土が浅い場合には出芽不良などの葉害を生じることがあるので、覆土はていねいに2～3 cm程度行う。 3. 希釈水量が多いほど除草効果は高い。
	ラウンドアップマックスロード (2011)	グリホサートカリウム塩 48.0	一年生及び多年生雑草に適用あり												1. 播種後に使用する場合は、耕起直後～出芽前の間に早めに散布する。 2. 少量散布の場合は、少量散布用ノズルを使用する。
乾 田 期 入 水 後	クリンチャーバスME液剤 (1997)	シハロホップブチル 3.0 ペンタゾンナトリウム塩 20.0	●	●	●	●	●	●							1. 移植に準ずる。
	クリンチャーEW (2000)	シハロホップブチル 30.0	●	●											1. 移植に準ずる。
	トドメバスMF液剤 (2022)	ベンタゾンナトリウム塩 18.3 メタミホップ 1.2	●	●	●	●	●	●				●	●		1. 散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 2. オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。

6. 湛水直播

2024年7月1日現在

処 理 法	除草剤名 (登載年)	成分 (%)	適用雑草											表層剥離	使用上の注意
			ノ ビ エ	水 田 一 年 生 雑 草	マ ツ バ イ	ホ タ ル イ	ウ リ カ ワ	ミ ズ ガ ヤ ツ リ	ヒ ル ム シ ロ	コ ウ キ ヤ ガ ラ	オ モ ダ カ	ヘ ラ オ モ ダ カ	セ リ	ク ロ グ ワ イ	
播 種 直 後	ブレキープ1キロ粒剤 (2016)	ビラゾキシフェン 1.5 ベンゾビシクロン 0.30	●	●	●	●	●	●	●						1. 非SU剤 2. ノビエ1.0葉期までに散布することが望ましい。 3. SU抵抗性雑草発生ほ場では体系処理で使用する。 4. 表面散播でも葉害が少ない。
初 期 一 発	ウルフエース1キロ粒剤51 (2005)	ベンスルフロンメチル 0.51 ベンチオカーブ 15.0 メフェナセット 3.0	●	●	●	●	●	●	●				●	●	1. SU剤
	トップガンLフロアブル (2009)	ビリミノバックメチル 0.56 プロモブチド 17.0 ベンスルフロンメチル 0.93 ペントキサゾン 2.8	●	●	●	●	●	●					●	●	1. SU剤 2. ノビエ2.0葉期までに散布することが望ましい。 3. SU抵抗性雑草発生ほ場では体系処理で使用する。
	トップガンGT1キロ粒剤51 (2009)	ビリミノバックメチル 0.45 プロモブチド 9.0 ベンスルフロンメチル 0.51 ペントキサゾン 2.0	●	●	●	●	●	●					●		1. SU剤 2. ノビエ2.0葉期までに散布することが望ましい。 3. SU抵抗性雑草発生ほ場では体系処理で使用する。
	クリンチャー1キロ粒剤	シハロホップブチル 1.8	●												1. 移植に準ずる。
	クリンチャーEW	シハロホップブチル 30.0	●	●											1. 移植に準ずる。
中 後 期			※水田一年生雑草は水田一年生イネ科雑草												
	クリンチャーバスME液剤	シハロホップブチル 3.0 ペンタゾンナトリウム塩 20.0	●	●	●	●	●	●							1. 移植に準ずる。
	2, 4-Dアミン塩	2, 4-PAジメチルアミン 49.5	水田雑草（イネ科を除く）に適用あり												1. 移植に準ずる。
	トドメバスMF液剤 (2022)	ベンタゾンナトリウム塩 18.3 メタミホップ 1.2	●	●	●	●	●	●				●	●		1. 散布後少なくとも3日間（浅水処理は5日間）はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしない。 2. オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ防除は、必要に応じて有効な前処理剤との組み合わせで使用する。

7. 除草剤の成分と特性

成分名	種類	吸収部位	作用特性	殺草作用	薬害症状	除草効果									処理適期幅	持続効果	土壌中の移動性
						ハビエ	カヤツリグサ	コナキ	その他広葉	ホタルイ	ウリカワ	ミズカヤツリ	クロクワイ	モトダマカ			
MCPA 2, 4-PA	フェノキシ系	茎葉、根	ホルモン型移行性	ホルモン作用の攪乱	ロール葉下葉枯れ	×	○	○	○	◎	○	○	－	○	雑草生育期(コナギ2～5L)	長	小
アジ ^ム スルフロ ^ン	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	発生前～発生盛期	長	中
イ ^ブ フェンカルハ ^ン ソ ^ン	トリアゾ ^リ ニン系	根部、基部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	○～◎	○	○	×	○	×	△	－	極長	極小
イマ ^ヅ スルフロ ^ン	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～発生盛期	長	小
イン ^タ ノ ^フ ァン	オキシラン系	根、幼芽部、基部	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	◎	○～◎	△～○	×	×	－	－	発生前～ノビエ2.5L	長	小
エス ^ブ ロカル ^ブ	チオカーハ ^ン メイト系	根、幼芽（基部）	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	◎	◎	△～○	△～○	○	×	△	×～△	×	発生前～ノビエ2.5L	長	小
エトヘ ^ン ザ ^ン ニト ^ス	酸アミト ^ス 系	根＞幼芽＞茎葉	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	◎	×	△	×	×	×	×	×	×	発生前～ノビエ2.5L	長	小
オキサ ^ン ジクロ ^モ ホ ^ン	オキサ ^ジ ニン系	根	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	◎	◎	×	×	×	×	×	×	×	発生前～ノビエ4L	長	中
カフェンストロール	トリアゾール系	根、基部、茎葉	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	○～◎	○	△～○	×	△～○	×	×	発生前～ノビエ2.5L	極長	極小
カルフェントラゾ ^ン エチル	トリアゾ ^リ ニン系	茎葉部	－	クロロフィル生成成阻害	生育抑制 葉鞘褐変	×	○	◎	◎	△	○	×	○	△	－	中	小
キノクラミン(ACN)	キノ系	茎葉（根）	接触性	光合成阻害	葉鞘褐変 葉身白化	×	△	△～○	△～○	×	◎	×	×	○	発生始～盛期	短	小
クミ ^ル ロ ^ン	尿素系	根部、基部	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	△	◎	×	×	◎	×	◎	○～◎	×	－	長	極小
シクロピ ^リ モレート	ピ ^リ タ ^リ ジ ^ン シ ^ン オン系	根部、基部	－	クロロフィル生成成阻害	白化	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	◎	－	長	極小
クロメ ^フ ロップ ^ス	フェノキシ系	基部＞根＝茎葉	ホルモン型移行性	ホルモン作用の攪乱	生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	○	×	－	－	発生前～発生始	長	中
シクロスル ^フ ァ ^ム ロ ^ン	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～発生盛期	長	小～中
シハ ^ロ ホップ ^ブ チ ^ル	フェノキシ ^ブ ロピ ^ン オン酸系	茎葉	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	～ノビエ4L(粒) ～ノビエ6L(乳)	短	小
ジ ^メ タメトリ ^ン	トリアジン系	根、幼芽	移行性	光合成阻害	葉先枯れ	△	◎	◎	◎	○	△	○	－	－	発生前～ノビエ1L	極長	小
ジ ^メ トリ ^ン	トリアジン系	根	移行性	光合成阻害	葉先枯れ	○	◎	◎	◎	△	△	×	×	×	発生前～ノビエ2L	長	小
ダ ^ム イ ^ム ロ ^ン	尿素系	根	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	△	◎	×	×	◎	×	○	○	×	発生前～発生始	極長	小
デ ^ニ ルクロール	酸アミト ^ス 系	幼芽、幼根	移行性	タンパク合成阻害	生育抑制	◎	◎	○	○	○	×	○	×	×	発生前～ノビエ2L	長	小
デ ^フ リトリオン	トリケトン系	根、基部	移行性	クロロフィル生成成阻害	白化	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	－	長	中
トリア ^フ ァ ^モ ン	スルホニアニト ^ス 系	根、基部	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	◎	◎	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	発生前～ノビエ5L	長	中
ハロスフロ ^ン メチル	スルホニルウレア系	根≧幼芽≧茎葉	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	△～○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～発生盛期	長	中
ピ ^レ ラクロニル	－	根、基部＞茎葉	接触性	クロロフィル生成成阻害	葉鞘褐変 生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	○	△～○	○	○～◎	発生前～ノビエ2L	長	極小
ピ ^レ ラ ^ヅ キシ ^フ ェ ^ン	タ ^リ イ ^ジ ン系	幼芽、根	移行性	クロロフィル生成成阻害	クロロシ	◎	◎	◎	○	○	◎	○	×	○	発生前～ノビエ1L	長	小
ピ ^レ ラ ^ヅ スル ^フ ロ ^ン エチル	スルホニルウレア系	根≧幼芽＞基部	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	△～○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～発生盛期	長	中
ピ ^レ ラ ^ヅ レート	タ ^リ イ ^ジ ン系	幼芽＞根	移行性	クロロフィル生成成阻害	クロロシ	◎	◎	◎	○	○	◎	○	－	◎	発生前～ノビエ1L	長	小～中
ピ ^レ リ ^フ タリト ^ス	ピ ^レ リ ^ジ ニルサリチ ^ル 酸系	根部＞基部	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	◎	○	×	○～◎	△	×	○	－	－	発生前～ノビエ3L	長	極小
ピ ^レ リ ^フ チカル ^ブ	チオカーハ ^ン メイト系	根＞基部＞茎葉	移行性	物質転流阻害、老化促進	生育抑制	◎	◎	◎	○	○	－	△	－	－	発生前～ノビエ1.5L	極長	極小
ピ ^レ リ ^ミ スル ^フ ァ ^ン	スルホニアミト ^ス 系	根部、基部、茎葉部	－	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	発生前～ノビエ3L	長	中
ピ ^レ リ ^ミ ノバ ^ク メチ ^ル	ピ ^レ リ ^ジ ニルカルボ ^ン 酸系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	発生前～ノビエ3.5L	長	中
フェノキサ ^ス ル ^ホ ン	イ ^ノ キサ ^ゾ リ ^ン 系	根部、茎葉基部	－	超長鎖脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	○	△～○	×	△	×	×	－	極長	小
フェントラザ ^ミ ト ^ス	テトラゾ ^リ ニン系	根、幼芽部	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	○	○	△	×	×	×	×	発生前～ノビエ2.5L	長	極小
ブ ^タ クロール	酸アミト ^ス 系	幼芽部＞根部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	○	◎	○～◎	×	○	×	×	発生前～ノビエ1.5L	長	小
ブ ^タ ミホス	有機 ^リ ン系	幼芽	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	△	○	○	△	×	△	×	×	発生前～ノビエ1.5L	長	小
フルセ ^ト スル ^フ ロ ^ン	スルホニルウレア系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	△	◎	◎	×	○	△	発生前～ノビエ3L	長	中
フ ^レ チ ^ラ クロール	酸アミト ^ス 系	幼芽、根	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	○	◎	×	○	◎	－	－	発生前～ノビエ1.5L	中～長	小
フ ^ロ ピ ^リ スル ^フ ロ ^ン	スルホニルウレア系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	発生前～ノビエ3L	長	小
フ ^ロ モ ^フ チト ^ス	酸アミト ^ス 系	幼芽、根	移行性	細胞分裂阻害	生育抑制	○	◎	◎	△	◎	△	○～◎	○	△	発生前～発生初期	長	中～少
フル ^ビ ピ ^ラ ウ ^キ シ ^フ ェ ^ン ヘ ^ン ジ ^ン ル	ピ ^レ リ ^ジ ンカルボ ^ン 酸系	根部、基部、茎葉部	ホルモン型移行性	ホルモン作用の攪乱	ロール葉生育抑制	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	△	◎	－	長	極小
ヘ ^ノ キサ ^ス ラム	スルホニアミト ^ス 系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○～◎	◎	◎	～ノビエ5L	中	中
ヘ ^ン スル ^フ ロ ^ン メチル	スルホニルウレア系	根、基部、茎葉	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	△～○	◎	発生前～発生盛期	長	中
ヘ ^ン ソ ^ノ ピ ^レ シ ^ク ロ ^ン	タ ^リ イ ^ジ ン系	根部＝基部≧茎葉	移行性	クロロフィル生成成阻害	クロロシ	◎	◎	◎	○	◎	△	◎	△	×	発生前～ノビエ1L	長	極小
ヘ ^ン ソ ^ノ フェ ^ナ ツ ^フ	タ ^リ イ ^ジ ン系	根＞基部＞茎葉	移行性	クロロフィル生成成阻害	クロロシ	○	○	◎	◎	△	◎	△	×	◎	発生前～発生始期	長	小
ヘ ^ン タ ^ゾ ン	タ ^リ イ ^ジ ン系	茎葉、根	接触移行性	光合成阻害	葉枯れ	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	雑草生育期、発生盛～増殖期	長	大
ヘ ^ン ト ^キ ザ ^ン	オキサ ^ゾ リ ^ジ ンシ ^ン オン系	根、基部≧茎葉	接触性	クロロフィル生成成阻害	葉鞘褐変 生育抑制	◎	◎	◎	◎	○	△～○	○	－	－	発生前～ノビエ1.5L	長	極小
ヘ ^ン ソ ^フ レ ^セ ート	ヘ ^ン ソ ^ゾ フラン系	根、幼芽部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	○	×	×	×	○	○	◎	◎	－	発生前～発生盛期	長	極小
メ ^リ トリオン	トリケトン系	幼芽、茎葉	移行性	クロロフィル生成成阻害 白化 生育抑制	白化 生育抑制	△	◎	◎	◎	◎	△	○	×	△	－	長	小
メ ^タ ゾ ^ス ル ^フ ロ ^ン	スルホニルウレア系	根部、基部、茎葉部	移行性	アミノ酸生成成阻害	生育抑制	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	－	長	中
メ ^タ ミ ^ホ ップ ^ス	フェノキシ ^ブ ロピ ^ン オン酸系	茎葉部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制 葉先白化	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	発生始～ノビエ7L	中	小
メ ^フ ェ ^セ ット	酸アミト ^ス 系	幼芽、根	移行性	細胞分裂・伸長阻害	生育抑制	◎	◎	◎	○	○	×	○	×	×	発生前～ノビエ3L	長	極小
モ ^リ ネート	チオカーハ ^ン メイト系	根、基部	移行性	脂肪酸合成阻害	生育抑制	◎	◎	×	×	◎	×	◎	△	△	発生前～ノビエ3L	長	中
ランコトリオンナトリウム塩	トリケトン系	根部、基部、茎葉部	移行性	クロロフィル生成成阻害	白化	○	◎	◎	○	◎	◎	◎	△	×	－	長	中

出典：公益財団法人日本植物調節剤研究協会「水稻関係除草剤申請書」
注）除草効果は◎・・・極大、○・・・大、△・・・中、×・・・小を示す。